

## 第 3 章 食品ロス削減推進計画

### 1 基本理念

前章までの状況や課題を踏まえ、誰もが日常において、食への「感謝」と「大切さ」の気持ちを持ち続けるとともに、食品ロスによる環境負荷の低減に向け、本計画の基本理念を「もったいないの心を大切に、市民・事業者・行政の協働による食品ロス削減の推進」とし、「えべつ未来づくりビジョン（第 6 次江別市総合計画）」のもと、「江別市一般廃棄物処理基本計画」の目標の達成を目指すほか、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標<sup>※9</sup>や、国と北海道の計画目標についても貢献を図ります。

※9「持続可能な開発目標：SDGs（Sustainable Development Goals）」は、17 の目標（ゴール）と 169 のターゲットがあり、本計画は、目標 12「持続可能な生産消費形態を確保する」のターゲットの一つ「2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる」を主要な対象とします。

もったいないの心を大切に  
市民・事業者・行政の協働による食品ロス削減の推進

#### 《市民の役割》

市民は、日頃から食品の購入、調理、食事等の各場面において、食品に対する感謝の気持ちと大切さを忘れず、可能な限り廃棄しないよう努めるものとします。

#### 《事業者の役割》

事業者は、生産、流通、販売等の段階で事業活動スタイルを見直すなど、市民（消費者）とともに、食品ロスの削減等に努めるものとします。

#### 《市の役割》

市は、市民、事業者が、食品ロスの削減について、より一層関心を持つよう分かりやすい情報や実践方法等を発信しながら、協働による食品ロス削減の取り組みを進めるものとします。

## 2 基本方針

本計画の基本理念の実現に向け、3つの基本方針を定め、具体的な施策に取り組みます。

### 基本方針1 << 食品ロスの削減に関する情報提供の推進 >>

誰もが食品ロスの削減に関心を持てる情報を発信していきます。

### 基本方針2 << 食品ロスの削減を実践できる環境の推進 >>

誰もが継続して食品ロスの削減に取り組める環境の整備を進めます。

### 基本方針3 << 未利用品を活用した食品ロスの削減の推進 >>

市民や団体、事業者と連携して未利用品を活用した食品ロスの削減を推進します。

## 3 計画目標値

本計画と関連する江別市一般廃棄物処理基本計画の令和12年度（2030年度）の発生抑制の目標値は、令和元年度（2019年度）比で1人1日当たり家庭系廃棄ごみを56g（11.3%）削減し、事業系ごみを1,559t（14.8%）削減することとしています。

一方、国連の2015年9月のサミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」では、2030年までに世界全体のひとり当たりの食料廃棄を半減させることとしています。

このため、本計画では、関連する計画等の目標のほか、現在のコロナ禍の状況や本市のごみの排出量に鑑み、令和12年度（2030年度）の目標値を令和元年度（2019年度）比で、家庭系食品ロス量を、1人1日当たり約90gから約45g（約50%）削減し、事業系食品ロス量を、約700tから約350t（約50%）削減するものとします。

区分	現 状 令和元年度 (2019年度)	削減目標 令和12年度 (2030年度)	増減率 (%)
家庭系 (1人1日当たり)	約90g	△45g	△50%
事業系 (年間量)	約700t	△350t	△50%

## 4 計画の施策

本計画では、3つの基本方針の下に、次の7つの施策に取り組みます。

基本方針	施策
基本方針 1 食品ロスの削減に関する 情報提供の推進	1-1) 正しい情報の提供
	1-2) 分かりやすい情報の提供
基本方針 2 食品ロスの削減を実践できる 環境の推進	2-1) 家庭で実践できる取り組み
	2-2) 外食で実践できる取り組み
	2-3) 買い物で実践できる取り組み
	2-4) 食育を通じた取り組み
基本方針 3 未利用品を活用した 食品ロスの削減の推進	3-1) フードバンク活動等との連携の推進

### 基本方針 1 << 食品ロスの削減に関する情報提供の推進 >>

#### 1-1) 正しい情報の提供

賞味期限や消費期限の意味を正しく理解するとともに、国内の食品ロス量を知ることは、食品の安全・安心に繋がるほか、無用の食品廃棄を少なくすることが期待できます。

このため、誰もが食品に関する情報を理解し、買い物や飲食などの様々な場面で、知識として行動に取り入れてもらえるよう情報を提供していきます。



出典：農林水産省ホームページ

## 1-2) 分かりやすい情報の提供

食品ロスの削減は子どもから大人まで、幅広い世代が理解し、日頃から取り組むことで、持続的な削減効果が期待できます。

市では、平成 29 年度（2017 年度）に北海道情報大学と連携して生ごみ減量を啓発する 15 秒CMを作成・公開するなど、市民が興味を持てるよう情報提供に努めてきました。

今後も幅広い世代が食品ロスの削減に関心を持てるよう情報提供を行っていきます。



「てまえどり」啓発用ポスター



生ごみ減量啓発用 15 秒CM

## 基本方針 2 << 食品ロスの削減を実践できる環境の推進 >>

### 2-1) 家庭で実践できる取り組み

食品ロスの削減を進めるには、各家庭で日常から取り組むことが重要です。

市では、平成 27 年度（2015 年度）から市民団体等と連携して、食材を無駄なく調理する方法や保存方法の普及に向けた「食材使いきり・冷蔵庫収納講習会」を開催し、市民への実践を働きかけており、今後も各家庭で継続して食品ロスの削減に取り組んでもらえるよう、市民団体等と連携して講習会を開催していきます。



<< 食材使いきり・冷蔵庫収納講習会 >>

## 2-2) 外食で実践できる取り組み

飲食店での食品ロスの発生原因の一つに「食べ残し」があります。

市では、平成 28 年度（2016 年度）から、食品ロスに関する自治体ネットワーク「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」に参加し、食品ロス削減月間（10 月）に宴会時の食べ残しを削減する全国キャンペーン「30・10 運動」の啓発に取り組むとともに、市内事業者と連携して宴会時の配膳方法を工夫するなど、料理の食べ残しを減らす取り組みも実施しています。

飲食店における食べ残しの削減は、食品ロスを削減するうえで、重要であることから、引き続き市民、事業者とともに外食時の食べ残しを減らす取り組みを進めていきます。



《 「30・10 運動」啓発用ポスター 》

## 2-3) 買い物で実践できる取り組み

家庭からの食品ロスの一つに買い過ぎにより、保存過程（冷蔵庫内等）での消費・賞味期限切れによる食品廃棄があります。

また、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の店舗からも弁当や総菜等の食品の売れ残りにより、消費・賞味期限切れによる食品廃棄があります。

このような状況の改善に向け、誰もが買い物時には、予め冷蔵庫内を確認してから必要分の食品を購入する取り組みを啓発するほか、直ちに消費（飲食）する食品については、消費・賞味期限の近いものから購入する「てまえどり」を啓発し、消費・賞味期限切れによる食品廃棄の削減を進めていきます。



出典：環境省

## 2-4) 食育を通じた取り組み

将来を担う子ども達が正しい食習慣と知識を身に付け、食を大切にするとともに、感謝する気持ちを育てることは、食品ロスの削減に繋がります。

市では、保健、福祉、教育、農商工の各分野において食育活動を推進する江別市食育推進計画を2019年3月に策定し、関係団体と連携するなど、子ども達に食の大切さや、知識・関心を高めて豊かな感受性を育むよう様々な食に関する体験活動を行っています。

また、学校給食に関しても、子ども達が食事や食べ物の大切さを知るとともに、個々の子どもの事情を踏まえた食べ残しを減らす取り組みも重要であることから、栄養教諭や市民団体の出前授業<sup>※10</sup>による学校での食育が行われています。

このほか、平成28年度(2016年度)には、小学生夏休みリサイクル教室の一環として、市内在住野菜ソムリエの中橋賢一さんを講師に招き、市内小学生とその保護者を対象に「親子で学ぶ食材使いきりレシピ講習会」を開催しています。

このような取り組みを継続し、引き続き子ども達の食に対する「感謝」や「大切さ」の意識の醸成に努めていきます。



出典：江別市食育推進計画



《 小学生夏休みリサイクル教室 》

※10 日本リサイクルネットワーク・えべつが小学生を対象として行っている出前授業（包装容器等にかかるごみ処理費・減量等をゲーム方式で学ぶ授業）の中で、給食の食べ残しがどのようにリサイクルされているか教えています。

## 基本方針3 << 未利用品を活用した食品ロスの削減の推進 >>

### 3-1) フードバンク活動等との連携の推進

フードバンク・フードドライブ活動とは、店舗等や家庭で余剰となった未利用の食品、余剰となることが考えられる未利用の食品を、主に福祉団体等に寄贈して食品を活用する活動です。

この様な活動が社会に広がれば、食品ロスの削減に繋がることを期待できます。

一方、この活動を推進するにあたって、安定した食品の提供や安全性等の責任の所在を明確にする必要があり、活動を広めるうえで、一つの課題となっています。

現在、本市では、江別消費者協会等の諸団体がフードドライブ活動等を始めているほか、市内大学の学生が中心となって、地域の子ども達と食卓を囲む「子ども食堂」を実施していることから、今後、これらの活動状況を注視するとともに、他の自治体や団体等の事例を参考にしながら、実施団体との連携の在り方や食品の調達方法など、様々な課題を団体や大学等と連携して整理するほか、事業者に取り組んでいただくようPRに努めるなど、この活動を推進していきます。



出典：江別市食育推進計画

#### トピックス

これまで、本計画での取り組みを挙げてきましたが、どうしても食品を廃棄しなければならぬ場合があります。その様な時でも、生ごみを水切りしてごみ減量化や、堆肥化等のリサイクルができます。市では家庭向けに、コンポストや段ボール式、密閉式の堆肥化容器の助成を行っているほか、これらの容器の使い方を学ぶ講習会を開催し、家庭でのリサイクルを推進しています。また、事業系生ごみでは、民間事業者により、給食センターから出る給食残渣（学校給食の食べ残し）の飼料化（養豚の餌）や堆肥化が行われています。まずは食品ロスの削減に取り組み、どうしても廃棄する場合は、ただごみとして出さず、リサイクルして、環境負荷の低減を図ることを心がけましょう。

## 5 関連計画の食品ロス削減の目標値比較

主体	計画名称	対 象	期 間	目 標
国連	持続可能な開発目標 (SDG s)	全ての 食品廃棄	2016年 ～ 2030年	半減 (△50%)
国	第4次循環型社会形成 推進基本計画	家庭系 食品ロス	2000年度 (平成12年度) ～	半減 (△50%)
	食品循環資源の再生利用等の 促進に関する基本方針	事業系 食品ロス	2030年度 (令和12年度)	半減 (△50%)
北海道	北海道食品ロス削減 推進計画	家庭系 食品ロス	2017年度 (平成29年度) ～ 2030年度 (令和12年度)	11万トンから 9万トンに削減 (△18%)
		事業系 食品ロス		22万トンから 17万トンに削減 (△23%)
		食品ロス 全体		33万トンから 26万トンに削減 (△21%)
江別市	江別市食品ロス削減 推進計画	家庭系 食品ロス	2023年度 (令和5年) ～ 2030年度 (令和12年度)	1人1日当たり 約90gから 約45gに削減 (△50%)
		事業系 食品ロス		年間排出量 700tから 350tに削減 (△50%)